


河川事業の再評価項目調書

事業名(箇所名)	日野川総合水系環境整備事業					
実施箇所	日野川直轄管理区内					
当該基準	事業採択後長期間(5年間)が経過した時点で継続中の事業					
事業諸元	(水辺整備) ① 福市箇所環境整備[計画] 高水敷整正、ワンド、坂路等					
事業期間	平成25年度～平成27年度					
総事業費(億円)	2.2億円	残事業費(億円)		2.2億円		
目的・必要性	<p>日野川は、その源を鳥取県日野郡日南町三国山(標高1,004m)に発し、法勝寺川や印賀川、俣野川等を合わせて、日本海に注いでいる。下流部には「日野川桜づつみ」等が整備され、地域住民に広く利用されている。</p> <p>支川の法勝寺川は、米子市観音寺において日野川に合流し、流域内で肥沃な平地部を形成しており、のどかな田園風景が広がる。河川水は古くから農業用水として利用され、また、14箇所の発電所において発電用水として使用されている。</p> <p>(水辺整備) 《福市箇所、高水敷整正、ワンド、坂路等》 事業予定箇所周辺には小学校があるが、河川敷には雑草が繁茂し、水辺に近づきにくくなっているため、子どもたちが日常的に川と触れ合い、河川環境学習などの活動の場として利用できるように基盤整備を行う。</p>					
便益の主な根拠	(水辺整備) 年間利用者数の増加: 311,330人					
事業全体の投資効率性	基準年度	平成23年度				
		B:総便益(億円)	C:総費用(億円)	B/C	B-C(億円)	EIRR(%)
	全体事業	8.2	1.9	4.3	6.3	17.8
事業の効果等	(水辺整備) ・高水敷整正、ワンド、坂路等の整備により、総合学習の場等として、安全に水辺を利用できるようになる。 ・散策等の利用が増加するなど、市民の憩いの場として利用されるようになり、利用者の増加が見込まれる。					
社会情勢等の変化	・日野川流域の1市6町1村(米子市、南部町、伯耆町、江府町、日野町、日南町、大山町、日吉津村)の人口推移は、米子市が増加傾向、江府町、日野町、日南町及び大山町が減少傾向にあるものの、他の町村は概ね横ばい傾向となっている。					
事業の進捗状況	・本事業は計画段階であり、事業の進捗状況は0%である。					
事業の進捗の見込み	<p><福市箇所></p> <p>・計画段階であり、関係機関や住民等の意見を反映しながら事業の実施について検討していく。</p> <p>・岸本箇所については、現地の状況および関係機関と調整の結果、整備を行わないこととした。</p>					
コスト縮減や代替案立案の可能性	<p>・水辺整備にあたっては、近隣の別工事で発生する土砂を盛土へ流用すること等によりコストの縮減を図る。</p> <p>・事業の進捗状況、費用対効果を鑑み、継続実施が妥当であり、現状での代替案を検討する必要がないと考えている。</p>					
対応方針(原案)	継続					
対応方針理由	<p>上記の視点から、水辺整備の必要性、重要性は変わらないことから継続が妥当である。</p> <p>今後の事業の実施にあたっては、地域と協力体制を確立するとともに、コスト縮減に引き続き取り組み、効率的かつ効果的な事業の執行に努める。</p>					
その他	特になし					

河川事業のフォローアップ項目調書

事業名（箇所名）	日野川総合水系環境整備事業						
実施箇所	日野川直轄管理区内						
該当基準	事業（箇所）完了後5年以内の事業						
事業諸元	（水辺整備） ①富吉箇所 （国）高水敷整正、階段工、護岸等 [H17～18年度]						
事業期間	平成17年度～平成18年度						
総事業費	1.2億円						
目的・必要性	<p>日野川は、その源を鳥取県日野郡日南町三国山（標高1,004m）に発し、法勝寺川や印賀川、俣野川等を合わせて、日本海に注いでいる。下流部には「日野川桜づつみ」等が整備され、地域住民に広く利用されている。</p> <p>支川の法勝寺川は、米子市観音寺において日野川に合流し、流域内で肥沃な平地部を形成しており、のどかな田園風景が広がる。河川水は古くから農業用水として利用され、また、14箇所の発電所において発電用水として使用されている。</p> <p>（水辺整備） 《富吉箇所》 護岸や堤防は急勾配で水辺に近づきにくく、水辺には草類や樹木が繁茂していたため、子どもたちが日常的に川と触れ合い、河川環境学習などの活動の場として利用できるように基盤整備を行った。</p>						
便益の主な根拠	（水辺整備） 年間利用者数の増加：113,437人						
費用対効果分析の算定根拠となった要因の変化		事業費		予定工期		便益計測手法	
	当初	—		—		CVM	
	事後	1.2億円		平成17年度～平成18年度		TCM	
		B:総便益 (億円)	C:総費用 (億円)	B/C	B-C (億円)	EIRR (%)	基準年度
	当初	—	—	—	—	—	平成16年度
事後	5.2	1.5	3.4	3.7	15.1	平成23年度	
事業効果の発現状況	（水辺整備） 《富吉箇所》 富吉箇所では、小学校の総合学習等の環境学習の場として利用されている。 また、散策など、地域交流の場として利用されている。						
事業実施による環境の変化	特になし						
社会経済情勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・日野川流域の1市6町1村（米子市、南部町、伯耆町、江府町、日野町、日南町、大山町、日吉津村）の人口推移は、米子市が増加傾向、江府町、日野町、日南町及び大山町が減少傾向にあるものの、他の町村は概ね横ばい傾向となっている。 ・整備箇所は水に親しめる場として多くの住民に利用されている。 						
今後の事業評価の必要性	本事業は十分な事業効果を発揮しており、今後とも地域住民等による多様な水辺の利用が見込まれることから、改めて事後評価に準ずるフォローアップを実施する必要はない。 今後は、河川水辺の国勢調査（空間利用実態調査）などを活用して、継続的に事業効果の発現について追跡調査を行う。						
改善措置の必要性	事業目的に見合った事業効果の発現が確認されたことから、今後の改善措置の必要性はない。						
同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	特になし						

対応方針（案）	<p>上記の視点から、本事業は十分な事業効果を発揮しており、今後とも地域住民等による多様な水辺の利用が見込まれることから、改めて事後評価に準ずるフォローアップを実施する必要はない。</p> <p>また、事業目的に見合った事業効果の発現が確認されたことから、今後の改善措置の必要性はない。</p>
---------	---



日野川総合水系環境整備事業

～再評価・事後評価に準ずるフォローアップ～

平成24年1月26日
国土交通省中国地方整備局

1. 流域の概要

- 日野川は、その源を鳥取県日野郡日南町三国山（標高1,004m）に発し、法勝寺川や印賀川、俣野川等を合わせて、日本海に注いでいる。
- 下流部には「日野川桜つつみ」等が整備され、地域住民に広く利用されている。
- 支川の法勝寺川は、米子市観音寺において日野川に合流し、流域内で肥沃な平地部を形成しており、のどかな田園風景が広がる。
- 河川水は古くから農業用水として利用され、また、14箇所の発電所において発電用水として使用されている。



【日野川の諸元】

- 流域面積： 870km²
- 幹川流路延長： 77km
- 山地面積比率： 約92%
- 流域内人口： 61千人



2. 日野川水系の現状・利用状況及び河川環境に関する課題

- 日野川の河川水質は、環境基準を概ね満足し、良質な水質が保たれている。
- 車尾床止から河口までの下流部は、河口砂州で夏鳥として渡ってくるコアジサシが営巣している。
- 日野川及び周辺地域をフィールドとした住民団体や地域団体が活動しており、河川愛護の啓発活動や環境学習を継続的に行っている。
- 日野川及び法勝寺川の河川敷は、雑草等が繁茂し、水辺に近づきにくくなっている。

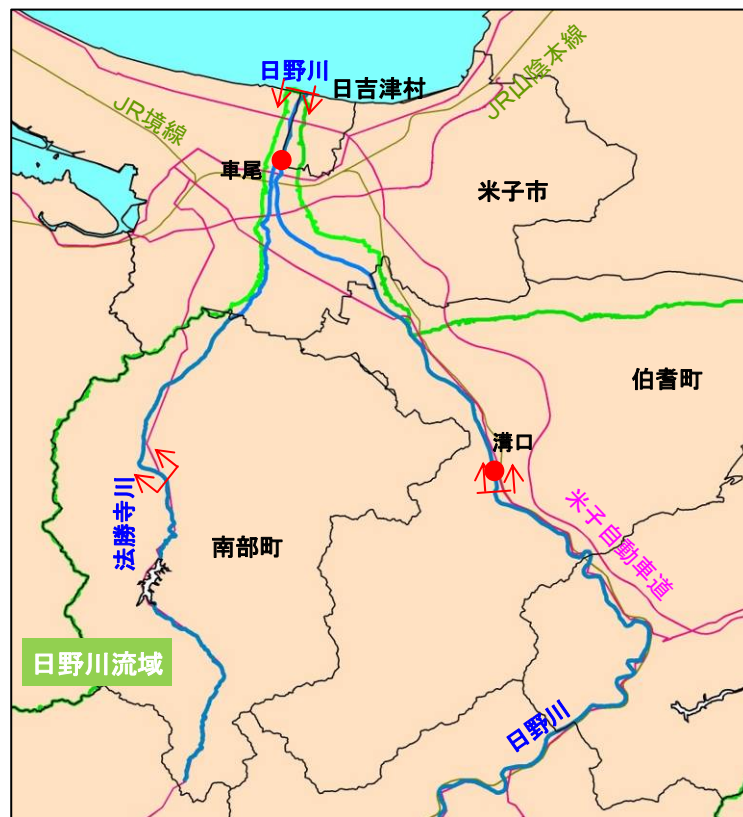


水生生物調査

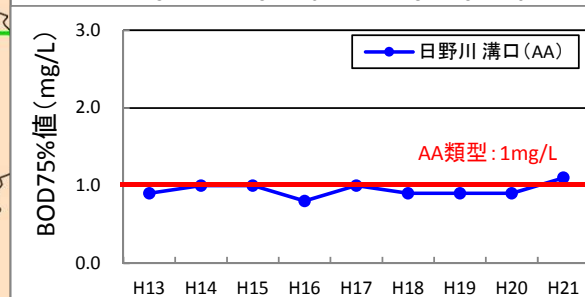
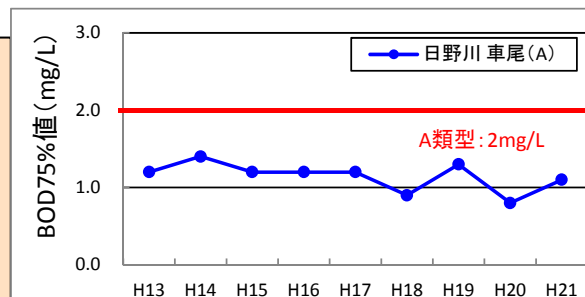


日野川(岸本箇所)
整備前(現在)の状況

日野川



注) 図中の●箇所は、水質調査地点を示す。



注) グラフ地点名称後ろの()内のアルファベットは環境基準類型を示す。



一斉清掃

3-1. 事業内容（前回評価）

- 前回評価（H16）時における実施予定箇所は以下の3箇所であったが、岸本箇所については、現地の状況および関係自治体との調整により整備を行わないこととした。

■平成16年度における事業予定箇所

河川名	事業名	市町村	事業内容
日野川	水辺の楽校【岸本箇所】	伯耆町	高水敷整正、ワンド、坂路等
法勝寺川	水辺の楽校【福市箇所】	米子市	高水敷整正、ワンド、坂路等
日野川	水辺の楽校【富吉箇所】	日吉津村	高水敷整正、階段工、護岸等

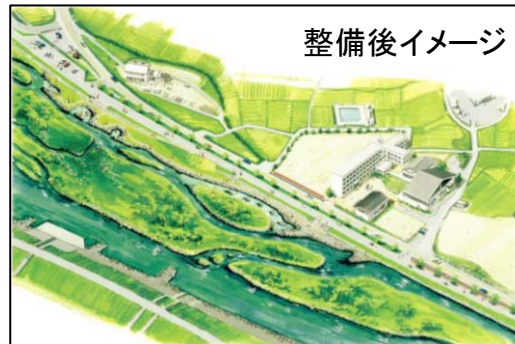


水辺の楽校【岸本箇所】

整備内容：子どもたちが日常的に川と触れ合う、河川環境学習などの活動の場としての基盤整備

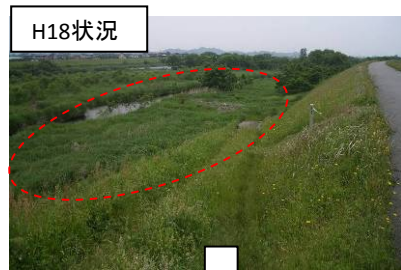
整備しないこととした理由

：平成23年9月台風12号の出水により、みお筋が移動し、岸本箇所周辺の地形等が変化したことから水辺の楽校整備には適さない河道状況となったことなどを踏まえ、関係自治体と調整した結果、岸本箇所の整備を行わないこととした。



河道の状況

整備予定箇所は右岸に寄州が発達し、それを利用した整備を行う予定であったが、平成23年9月の出水により、みお筋が右岸に移動し、河道の状況が大きく変化した。



3-2. 事業内容（今回評価）

- 事業評価を行うのは、日野川総合水系環境整備事業における以下の2つの箇所である。

評価区分	No.	河川名	事業名		市町村	事業年度	事業内容	事業費 (百万円)
再評価	①	法勝寺川	【水辺整備】	水辺の楽校 【福市箇所】	米子市	(計画)	高水敷整正、ワンド、坂路等	215
フォローアップ	②	日野川	【水辺整備】	水辺の楽校 【富吉箇所】	日吉津村	H17~H18	高水敷整正、階段工、護岸等	120



凡 例	
【再評価】	緑: 計画(①)
【フォローアップ】	黒: 完成(②)

4-1. 整備内容（再評価）

①水辺整備【福市箇所】（計画）

整備目的：子どもたちが日常的に川と触れ合う、河川環境学習などの活動の場としての基盤整備

現状と課題：河川敷には雑草等が繁茂し、水辺に近づきにくくなっている。

整備内容：高水敷整正、ワンド、坂路等

事業費：215百万円

【福市箇所の位置】



整備前の状況



【福市箇所 完成イメージ図】



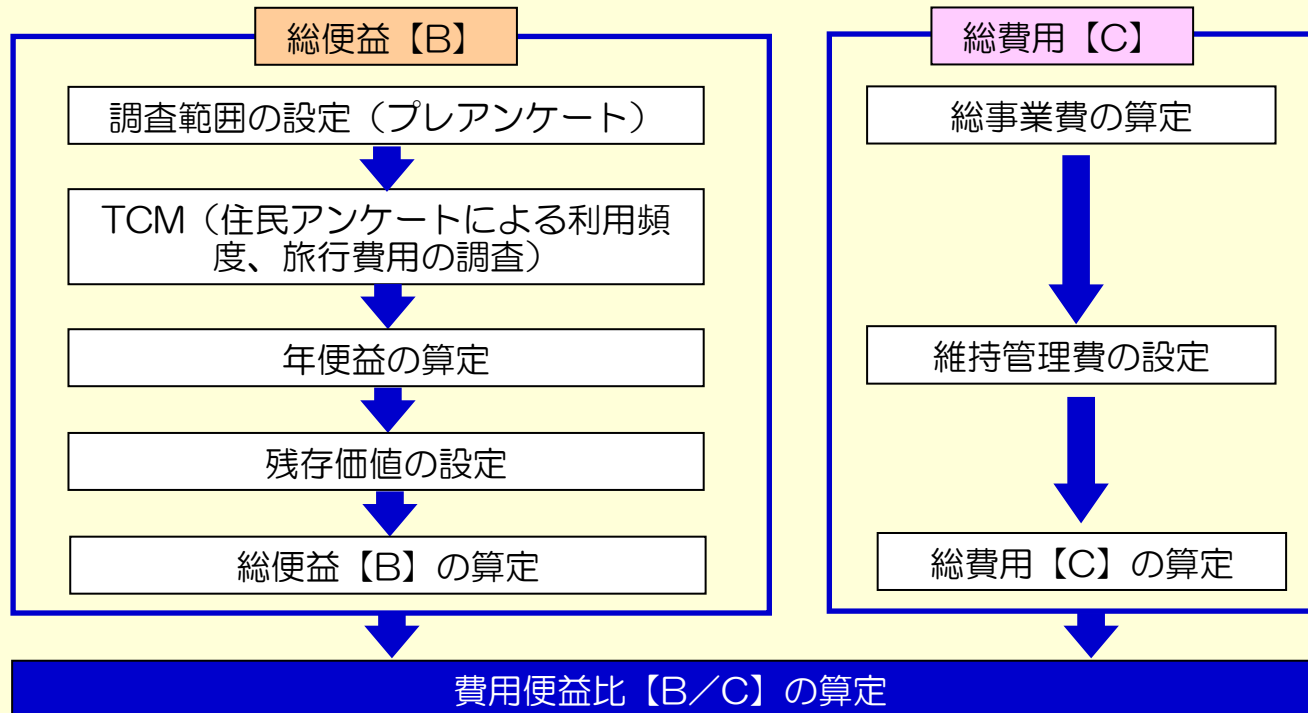
図は一般的な水辺の楽校のイメージであり、実際の整備前には地元・関係機関との調整を行い整備位置や整備内容を決定します。

整備後の活用例
富吉箇所の水辺整備(日吉津村)



4-2. 費用対効果分析（再評価）

(1) 費用便益比（B/C）算定の流れ



(2) 便益の計測

「河川に係わる環境整備の経済評価の手引き」（H22.3）に基づき、評価を行った。

◆TCM（トラベルコスト法）

⇒ 整備前後の利用頻度、旅行費用の需要曲線を推定し、整備前後の需要曲線の差分を年便益（消費者余剰）として計測する。

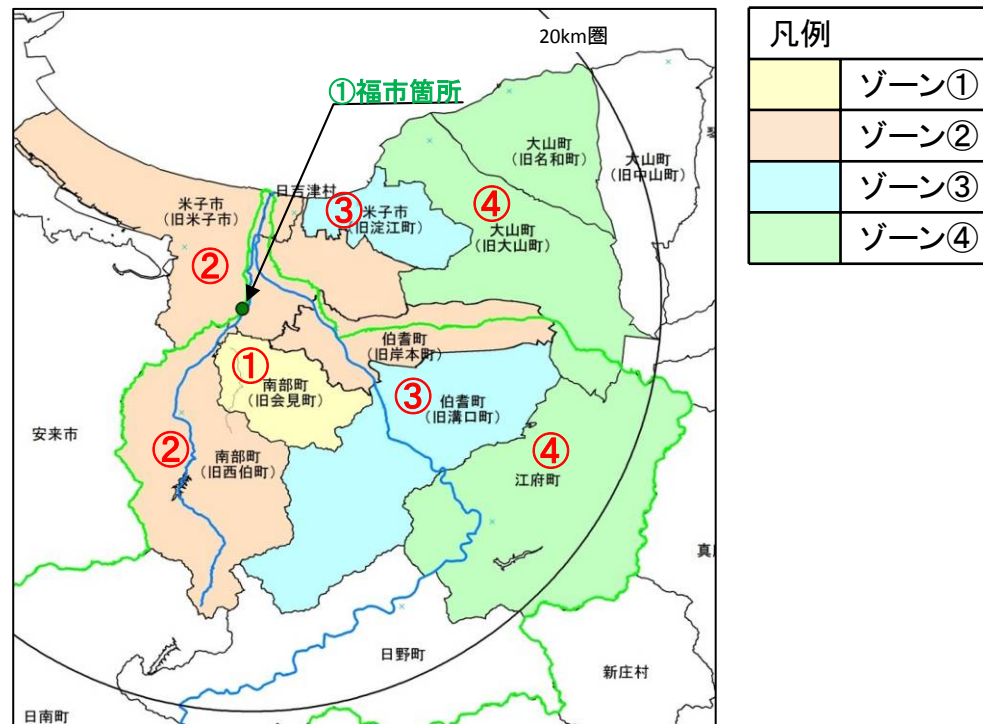
4-2. 費用対効果分析（再評価）

(3) 調査範囲（住民アンケート配布範囲＝便益集計範囲）の設定【TCM】

プレアンケートを実施し、住民アンケート配布範囲（便益集計範囲）を設定。

① 水辺整備【福市箇所】（TCM）

⇒プレアンケートの結果より、利用者が確認されている米子市（旧米子市、旧淀江町）、日吉津村、伯耆町（旧岸本町、旧溝口町）、南部町（旧会見町、旧西伯町）、江府町、大山町（旧大山町、旧名和町）とした。



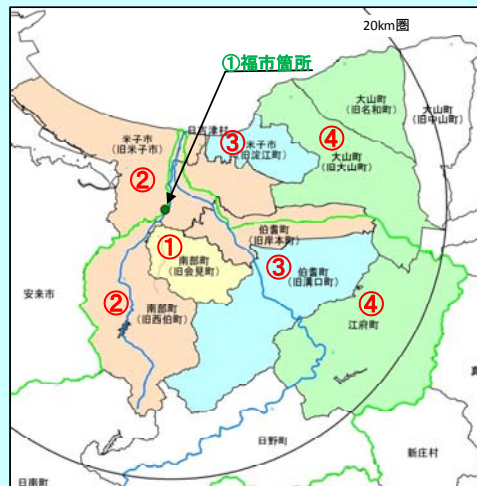
4-2. 費用対効果分析（再評価）

【水辺整備】TCM（住民アンケートによる利用頻度、旅行費用の調査）

- ・ アンケート調査結果から利用者の来訪距離別にゾーンを選定。
- ・ アンケート調査結果から各ゾーンごとに交通手段別の利用頻度、旅行費用（トラベルコスト）を算定。
- ・ 整備前後の需要関数を求め、その差分を年便益（消費者余剰）とする。
- ・ 郵送によるアンケートを実施。

アンケート結果・回収状況	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
水辺整備【福市箇所】	1,200	617	51.4%	456	73.9%

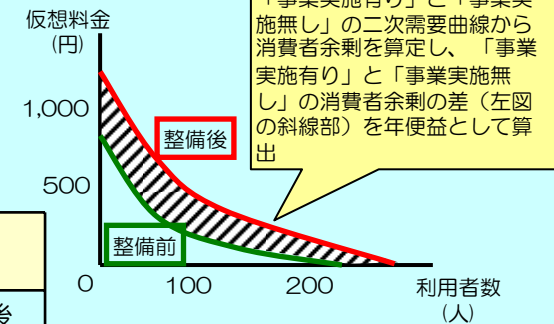
【利用実態を踏まえてゾーンを設定】【整備前後の消費者余剰（単年度便益）を算定】 （水辺整備【福市箇所】）



◆ 利用頻度とトラベルコストの関数曲線を用いて、ゾーンごとに仮想料金を設定し、仮想料金ごとの利用者数を求め、各ゾーンの総和によって得られた値により需要曲線（需要関数）を推計。

（水辺整備【福市箇所】）

ゾ ン 名	平均利用頻度 (回/年・人)		C.旅 行費用 (円)	年便益 (百万円)	
	整備前	整備後		整備前	整備後
①	2.35	10.04	142	36	81
②	3.04	5.30	241		
③	0.24	0.56	436		
④	0.13	0.26	764		



【水辺整備】 （再評価）

：年便益額（消費者余剰）
＝45百万円

（4）残存価値の設定

事業完成後50年経過時点での事業箇所の価値を算定。

（5）総便益の算定

事業完成後50年の年便益総和に残存価値を加え、算定社会的割引率（4%）を用いて現在価値化した値。

4-2. 費用対効果分析（再評価）

(6) 費用便益比（B/C）の算出方法

再評価【全体事業】

対象箇所：①福市箇所

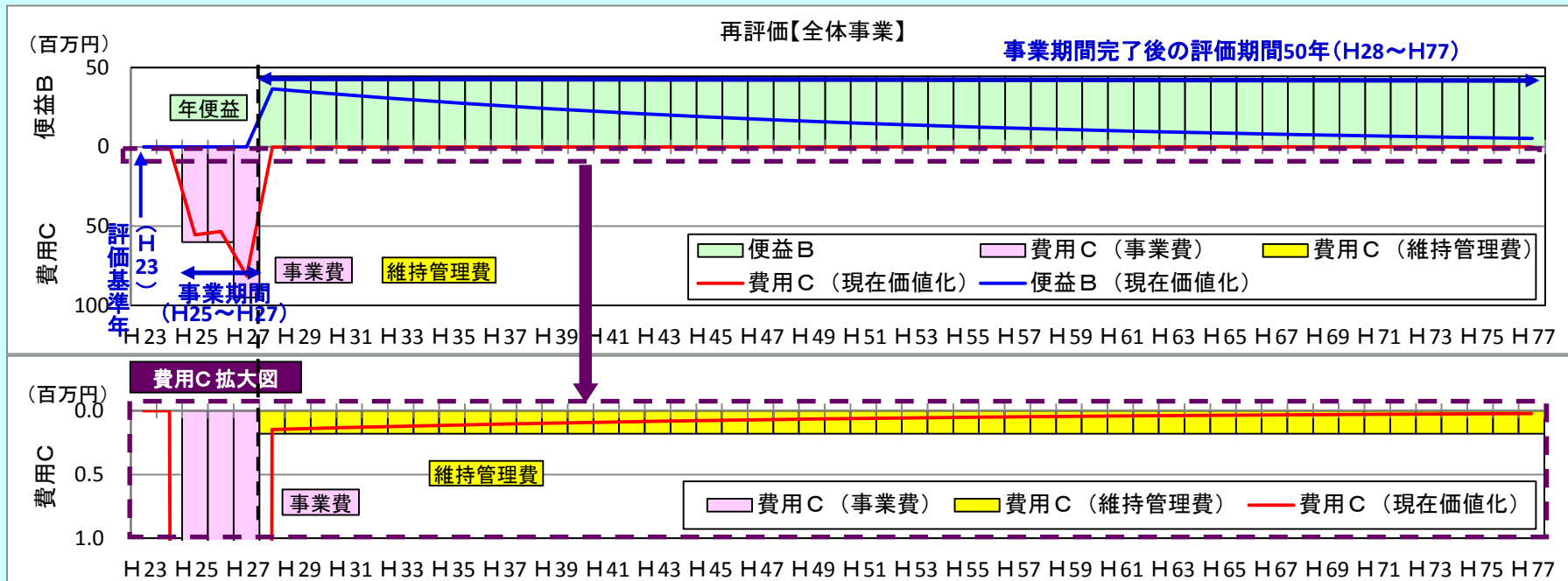
【便益の整理】

- ・ 評価期間中に発現する便益を社会的割引率（4%）で割り引いた上で集計
- ・ 評価期間後に生じる残存価値を算定

【費用の整理】

- ・ 今後見込まれる事業費、維持管理費については社会的割引率（4%）によって割り引いた上で集計

項目	全体
便益(B1)	819百万円
残存価値(B2)	5百万円
総便益(B=B1+B2)	824百万円
建設費(C1)	190百万円
維持管理費(C2)	3百万円
総費用(C=C1+C2)	193百万円
便益比(B/C)	4.3



4-2. 費用対効果分析（再評価）

（7）費用対効果分析結果（再評価）

事業期間を事業完了後50年間とし、現在価値化を行った。

◇総便益

【水辺整備】全体事業： 824百万円

（※）総便益は、それぞれの年便益に、社会的割引率（4%）を用い現在価値化したものに残存価値を加えた値。

◇総費用

【水辺整備】全体事業： 193百万円

（※）総費用は、総事業費に50力年の維持管理費を加え、社会的割引率（4%）を用い現在価値化した値。

（※）維持管理費は、富吉箇所実績費より設定した。

◇費用便益比（B/C）

【水辺整備】全体事業： 4.3

4-3. 今後の対応方針（原案）【再評価】

(1) 再評価の視点

①事業の必要性等の視点

1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・流域内の市町村の人口に大きな変化はみられない。
- ・日野川は、地域住民に日常生活の中で散策等の利用がなされている。

2) 事業の投資効果

- ・費用便益比（H23時点） 全体事業（B/C）=4.3

3) 事業の進捗状況

- ・本事業は計画段階である。

②事業の進捗の見込み

- ・予定事業について、関係機関や住民等の意見を取り入れながら事業を実施する。

③コスト縮減や代替案立案等の可能性

- ・福市箇所にあたっては、近隣工事で発生する土砂を流用すること等によりコスト縮減を図る。
- ・費用対効果等を鑑み継続実施が妥当であり、現状での代替案を検討する必要は無いと考える
- ・岸本箇所については、現地の状況および関係機関と調整の結果、整備を行わないこととした。

(2) 県への意見照会結果

- ・事業再評価に係る対応方針（原案）については異存ありません。

【今後の対応方針（原案）】

- ・上記の各視点により、事業の必要性、重要性は変わらないことから、事業の継続が妥当である。
- ・今後の事業実施にあたっては、地域との協力体制を確立するとともにコスト縮減に取り組み、効率的かつ効果的な事業の執行に努める。

5-1. 整備内容（フォローアップ）

②水辺整備【富吉箇所】（H17～H18）

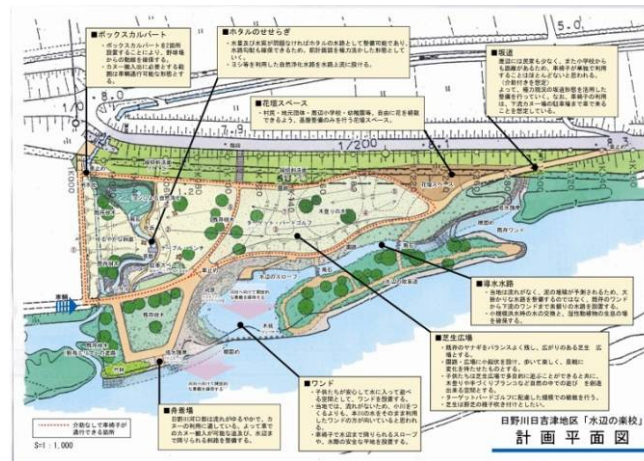
整備目的：子どもたちが日常的に川と触れ合う、河川環境学習などの活動の場としての基盤整備

整備前の課題：護岸や堤防は急勾配で水辺に近づきにくく、また、水辺には草類や樹木が繁茂していた。

整備内容：高水敷整正、階段工、護岸等

事業費：120百万円

【富吉箇所の位置】



完成前の状況



完成後の状況



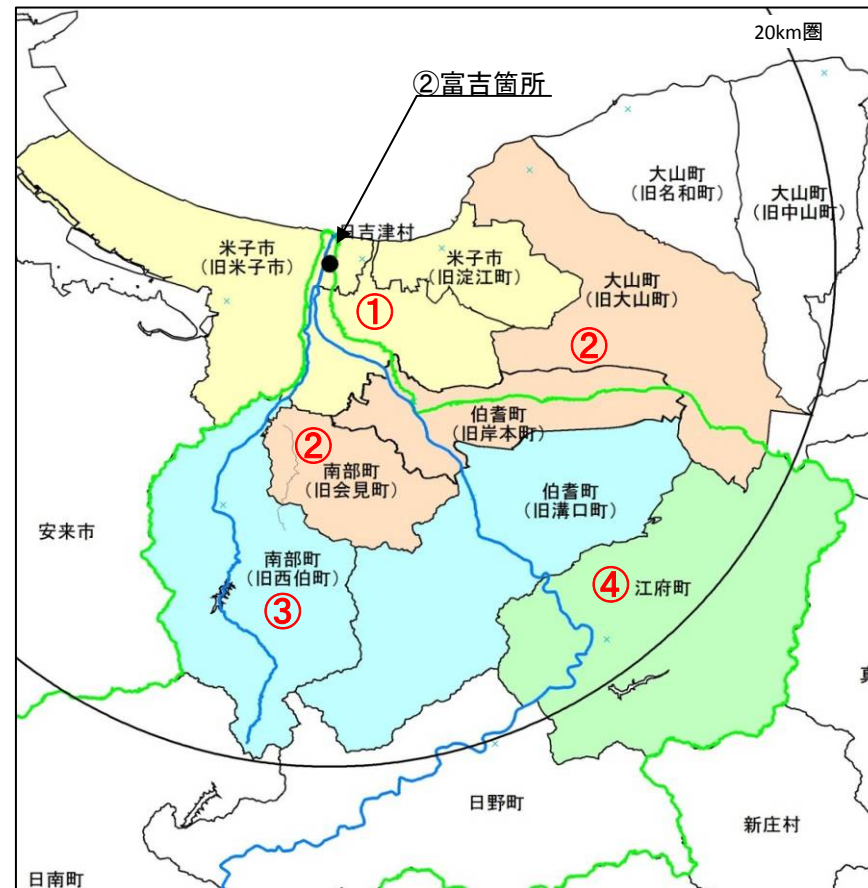
5-2. 費用対効果分析（フォローアップ）

(1) 調査範囲（住民アンケート配布範囲＝便益集計範囲）の設定【TCM】

プレアンケートを実施し、住民アンケート配布範囲（便益集計範囲）を設定。

② 水辺整備【富吉箇所】（TCM）

⇒プレアンケートの結果より、利用者が確認されている米子市（旧米子市、旧淀江町）、日吉津村、伯耆町（旧岸本町、旧溝口町）、南部町（旧会見町、旧西伯町）、江府町、大山町（旧大山町）とした。



凡例	
Yellow	ゾーン①
Orange	ゾーン②
Light Blue	ゾーン③
Light Green	ゾーン④

5-2. 費用対効果分析（フォローアップ）

【水辺整備】TCM（住民アンケートによる利用頻度、旅行費用の調査）

- ・ アンケート調査結果から利用者の来訪距離別にゾーンを選定。
- ・ アンケート調査結果から各ゾーンごとに交通手段別の利用頻度、旅行費用（トラベルコスト）を算定。
- ・ 整備前後の需要関数を求め、その差分を年便益（消費者余剰）とする。
- ・ 郵送によるアンケートを実施。

アンケート結果・回収状況	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
水辺整備【富吉箇所】	1,200	588	49.0%	495	84.2%

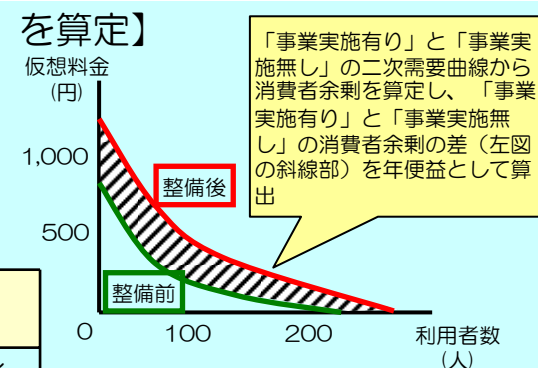
【利用実態を踏まえてゾーンを設定】【整備前後の消費者余剰（単年度便益）を算定】 （水辺整備【富吉箇所】）

◆ 利用頻度とトラベルコストの関数曲線を用いて、ゾーンごとに仮想料金を設定し 仮想料金ごとの利用者数を求め、各ゾーンの総和によって得られた値により需要曲線（需要関数）を推計。



（水辺整備【富吉箇所】）

ゾー ン名	平均利用頻度 (回/年・人)		C.旅行 費用 (円)	年便益（百万円）	
	整備前	整備後		整備前	整備後
①	0.03	0.91	222	1	21
②	0.03	0.57	409		
③	0.04	0.06	622		
④	0.02	0.03	1,071		



【水辺整備】
（再評価）
：年便益額（消費者余剰）
＝20百万円

(2) 残存価値の設定

事業完成後50年経過時点での事業箇所の価値を算定。

(3) 総便益の算定

事業完成後50年の年便益総和に残存価値を加え、算定社会的割引率（4%）を用いて現在価値化した値。

5-2. 費用対効果分析（フォローアップ）

(4) 費用便益比（B/C）の算出方法

フォローアップ【全体事業】

対象箇所：②富吉箇所

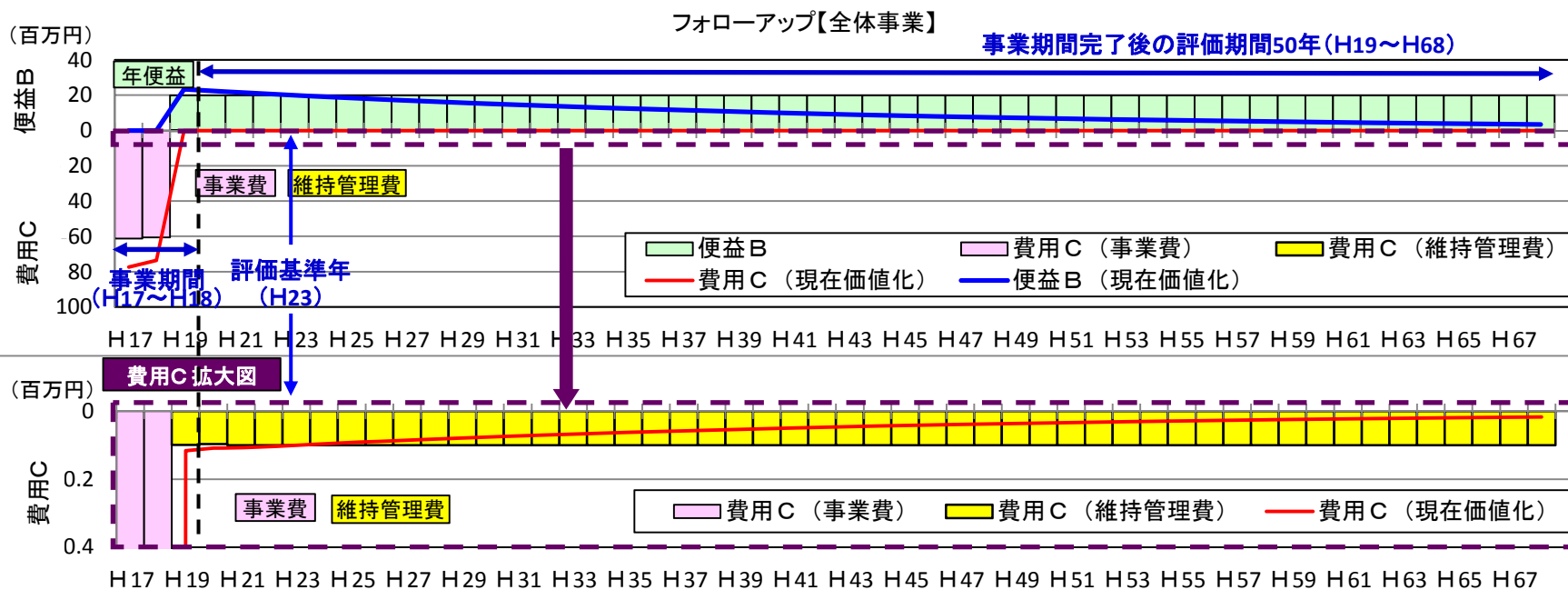
【便益の整理】

- ・ 評価期間中に発現する便益を社会的割引率（4%）で割り引いた上で集計
- ・ 評価期間後に生じる残存価値を算定

【費用の整理】

- ・ 既投資額についてはデフレータ及び社会的割引率（4%）で割り増しによって現在価値化し、今後見込まれる維持管理費については社会的割引率（4%）によって割り引いた上で集計

項目	フォローアップ
便益(B1)	520百万円
残存価値(B2)	5百万円
総便益(B=B1+B2)	525百万円
建設費(C1)	151百万円
維持管理費(C2)	3百万円
総費用(C=C1+C2)	154百万円
便益比(B/C)	3.4



5-2. 費用対効果分析（フォローアップ）

（4）費用対効果分析結果（フォローアップ）

事業期間を事業完了後50年間とし、現在価値化を行った。

◇総便益

【水辺整備】全体事業： 525百万円

（※）総便益は、それぞれの年便益に、社会的割引率（4%）を用い現在価値化したものに残存価値を加えた値。

◇総費用

【水辺整備】全体事業： 154百万円

（※）総費用は、総事業費に50力年の維持管理費を加え、社会的割引率（4%）を用い現在価値化した値。

（※）維持管理費は実績費とした。

◇費用便益比（B/C）

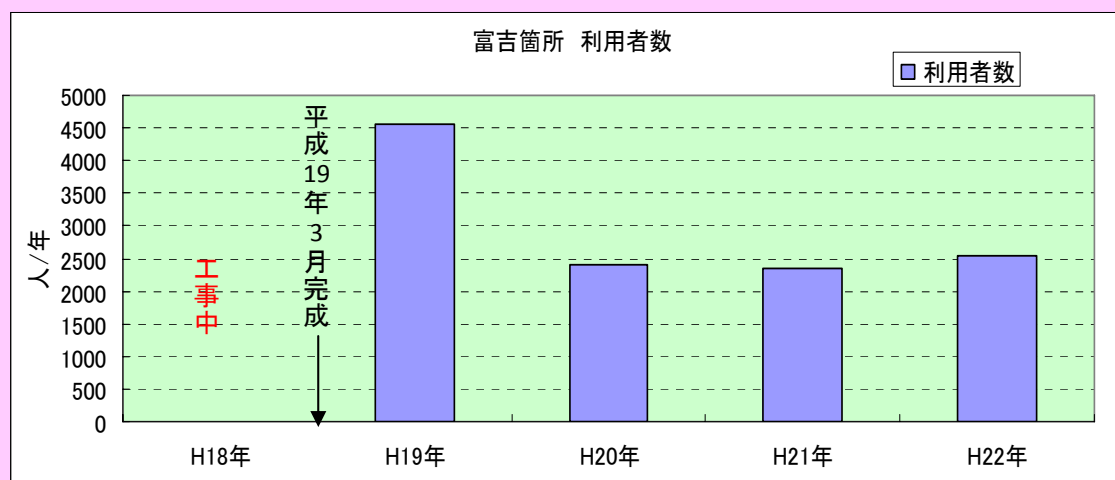
【水辺整備】全体事業： 3.4

5-3. 今後の対応方針（案）【フォローアップ】

(1) 事業の効果の発現状況

◇主な利用状況

・富吉箇所は、地元の小学校、幼稚園等の環境学習等で利用されているとともに、周辺住民の方の散策など地域の交流の場として利用されている。



日吉津村役場からの聞き取り調査による年間利用者数



5-3. 今後の対応方針（案）【フォローアップ】

(2) 事後評価に準ずるフォローアップの視点

①事業の効果の発現状況

- ・富吉箇所は、散策など、地域の交流の場として利用されるとともに、地元の幼稚園等の体験学習等で利用されている。

②事業実施による環境の変化

- ・特になし

③社会経済情勢等の変化

- ・流域内の市町村の人口に大きな変化はみられない。
- ・整備以降、富吉箇所では、ターゲットバードゴルフなどのレクリエーションの場としても利用されている。

【今後の対応方針（案）】

- ・上記①～③の視点から、本事業は十分な事業効果を発揮しており、今後とも地域住民等による多様な水辺の利用が見込まれることから、改めて事後評価に準ずるフォローアップを実施する必要はない。
- ・また、事業目的に見合った事業効果の発現が確認されたことから、今後の改善措置の必要性はない。

【参考】費用便益比総括表

単位：百万円

項目		再評価	フォローアップ ^o
		全体事業	全体事業
費用 (C)		193	154
	建設費	190	151
	維持管理費	3	3
便益 (B)		824	525
	便益	819	520
	残存価値	5	5
費用対便益(B/C)		4.3	3.4

- ※ 総費用は、総事業費に50カ年の維持管理費を加え、社会的割引率（4％）を用い現在価値化した値。
- ※ 維持管理費は、フォローアップ（富吉箇所）については実績費とし、再評価（福市箇所）についてはフォローアップでの実績費より設定した。
- ※ 総便益は、それぞれの年便益に、社会的割引率（4％）を用い現在価値化したものに残存価値を加えた値。

【参考】 前回評価時との比較

事項	前回評価	今回評価		備考
	(H16)	(H23再評価)	(H23フォローアップ)	
事業諸元 及び 事業期間	<p>【岸本箇所】 高水敷整正、ワンド、 坂路等</p> <p>【福市箇所】 高水敷整正、ワンド、 坂路等</p> <p>【富吉箇所】 高水敷整正、階段工、 護岸等</p>	<p>【福市箇所】 (計画) 高水敷整正、ワンド、 坂路等</p>	<p>【富吉箇所】 (H17～18年度) 高水敷整正、階段工、 護岸等</p>	岸本箇所は整備なし
総事業費 (百万円)	555	215	120	
総費用 (C) (百万円)	533	193	154	
総便益 (B) (百万円)	1,059	824	525	
費用対効果 (B/C)	2.1	4.3	3.4	

【参考】感度分析（再評価）

- 参考として、残事業費、残工期、便益を個別に±10%変動させて、費用便益比（B/C）を算定し、感度分析を行った。

＜B/C算定ケース（基本1ケース、感度分析6ケース）＞

	基本	残事業費		残工期		便益	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+10%	-10%
全体事業費用 便益比（B/C）	4.3	3.9	4.7	4.3	4.3	4.7	3.8

(再評価)

日野川総合水系環境整備事業

[費用便益比 (B/C) 算定等資料]

(様式-1)

【概要】

水系・河川名	日野川水系
事業名	日野川総合水系環境整備事業
事業主体	日野川河川事務所
関係自治体	米子市
事業期間	2013年度～2015年度(平成25年度～平成27年度)
基準(評価年度)	2011年度(平成23年度)

【費用】

	建設費	維持管理費	合計
単純合計(実質価格)	215百万円	9百万円	224百万円
基準年における現在 価値合計(C)	190百万円	3百万円	193百万円

【便益】

	便益
供用年度	平成28年度
供用年度の単年度便 益(実質価格)	45百万円
残存価値	5百万円
基準年における現在 価値合計(B)	824百万円

【費用便益分析結果】

費用便益比(CBR)	4.3
純現在価値(NPV)	631百万円
経済的内部収益率 (EIRR)	17.8%

(様式-2)

【費用便益算定シート(事業全体の評価:再評価)】

基準(評価)年度	2011(H23)
供用年度	2016(H28)
社会的割引率	4%

(単位:百万円)

年度	デフ レタ	割引率	便益B				建設費③			費用④			計③+④							
			便益	実質価格	現在価値	実質価格	現在価値	費用	実質価格	現在価値	費用	実質価格	現在価値	費用	実質価格	現在価値				
0	2011	1.000	1.000																	
1	2012	1.000	0.982																	
2	2013	1.000	0.925																	
3	2014	1.000	0.859							60.0	60.0	55.5						60.0	60.0	55.5
4	2015	1.000	0.855							95.0	95.0	81.2						95.0	95.0	81.2
5	2016	1.000	0.822	44.6	44.6	36.7							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
6	2017	1.000	0.790	44.6	44.6	35.2							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
7	2018	1.000	0.760	44.6	44.6	33.9							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
8	2019	1.000	0.731	44.6	44.6	32.6							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
9	2020	1.000	0.703	44.6	44.6	31.3							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
10	2021	1.000	0.676	44.6	44.6	30.1							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
11	2022	1.000	0.650	44.6	44.6	29.0							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
12	2023	1.000	0.625	44.6	44.6	27.9							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
13	2024	1.000	0.601	44.6	44.6	26.8							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
14	2025	1.000	0.577	44.6	44.6	25.8							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
15	2026	1.000	0.555	44.6	44.6	24.8							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
16	2027	1.000	0.534	44.6	44.6	23.8							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
17	2028	1.000	0.513	44.6	44.6	22.9							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
18	2029	1.000	0.494	44.6	44.6	22.0							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
19	2030	1.000	0.475	44.6	44.6	21.2							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
20	2031	1.000	0.456	44.6	44.6	20.4							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
21	2032	1.000	0.439	44.6	44.6	19.6							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
22	2033	1.000	0.422	44.6	44.6	18.8							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
23	2034	1.000	0.406	44.6	44.6	18.1							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
24	2035	1.000	0.390	44.6	44.6	17.4							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
25	2036	1.000	0.375	44.6	44.6	16.7							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
26	2037	1.000	0.361	44.6	44.6	16.1							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
27	2038	1.000	0.347	44.6	44.6	15.5							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
28	2039	1.000	0.333	44.6	44.6	14.9							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
29	2040	1.000	0.321	44.6	44.6	14.3							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
30	2041	1.000	0.308	44.6	44.6	13.8							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
31	2042	1.000	0.296	44.6	44.6	13.2							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
32	2043	1.000	0.285	44.6	44.6	12.7							0.2	0.2	0.1			0.2	0.2	0.1
33	2044	1.000	0.274	44.6	44.6	12.2							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
34	2045	1.000	0.264	44.6	44.6	11.8							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
35	2046	1.000	0.253	44.6	44.6	11.3							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
36	2047	1.000	0.244	44.6	44.6	10.9							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
37	2048	1.000	0.234	44.6	44.6	10.4							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
38	2049	1.000	0.225	44.6	44.6	10.0							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
39	2050	1.000	0.217	44.6	44.6	9.7							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
40	2051	1.000	0.208	44.6	44.6	9.3							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
41	2052	1.000	0.200	44.6	44.6	8.9							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
42	2053	1.000	0.193	44.6	44.6	8.6							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
43	2054	1.000	0.185	44.6	44.6	8.3							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
44	2055	1.000	0.178	44.6	44.6	7.9							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
45	2056	1.000	0.171	44.6	44.6	7.6							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
46	2057	1.000	0.165	44.6	44.6	7.3							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
47	2058	1.000	0.158	44.6	44.6	7.1							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
48	2059	1.000	0.152	44.6	44.6	6.8							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
49	2060	1.000	0.146	44.6	44.6	6.5							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
50	2061	1.000	0.141	44.6	44.6	6.3							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
51	2062	1.000	0.135	44.6	44.6	6.0							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
52	2063	1.000	0.130	44.6	44.6	5.8							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
53	2064	1.000	0.125	44.6	44.6	5.6							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
54	2065	1.000	0.120	44.6	44.6	5.4							0.2	0.2	0.0			0.2	0.2	0.0
合計				2,230.0	2,230.0	819.0	0.0	5.2	824.2	215.0	215.0	190.0	9.0	9.0	3.3	224.0	224.0	193.3		

費用便益比	
総便益(億円)	B
総費用(億円)	C
費用便益比	B/C
純現在価値(億円)	B-C
経済的内部収益率	17.8%

(様式-3)

【算出説明書】

事業概要	
事業目的	<p>日野川は、その源を鳥取県日野郡日南町三国山（標高 1,004m）に発し、法勝寺川や印賀川、俣野川等を合わせて、日本海に注いでいる。下流部には「日野川桜づつみ」等が整備され、地域住民に広く利用されている。</p> <p>支川の法勝寺川は、米子市観音寺において日野川に合流し、流域内で肥沃な平地部を形成しており、のどかな田園風景が広がる。河川水は古くから農業用水として利用され、また、14 箇所の発電所において発電用水として使用されている。</p> <p>（水辺整備） 《福市箇所、高水敷整正、ワンド、坂路等》 事業予定箇所周辺には小学校があるが、河川敷には雑草が繁茂し、水辺に近づきにくくなっているため、子どもたちが日常的に川と触れ合い、河川環境学習などの活動の場として利用できるように基盤整備を行う。</p>
事業内容 (事業箇所図)	<p>（水辺整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> 福市箇所 [計画] <p>高水敷整正、ワンド、坂路等</p> 

(様式-4)

【算出説明書】

費用便益比の算定根拠					
評価手法	福市箇所の環境整備は主な便益が水辺整備による利用価値の向上であることから TCM（トラベルコスト法）を用いて評価を行った。（平成 23 年 11 月にアンケート実施）				
便益計測期間	H28～H77（単独事業の効果発現時から全事業完了後 50 年）				
総便益	<p>○年便益額＝ 45 百万円</p> <p>○残存価値＝ 5 百万円</p> <p>総便益 B=Σ単年度便益額/(1+0.04)ⁿ+残存価値=824 百万円</p>				
便益 評価範囲 (評価対象範囲図)	<p>○便益集計範囲：プレアンケート結果より、利用が確認された 1 市 4 町 1 村とした。</p> <p>○人口：153,136 人</p> <p>○アンケート配布方法：郵送</p> <p>○アンケート票数：1,200 通配布</p> <p>回収数：福市箇所 617 票（回収率 51.4%）</p> <p>有効回答：福市箇所 456 票（有効回答率 73.9%）</p>				
評価範囲 (評価対象範囲図)	 <p>凡例</p> <table border="1"> <tr><td>ゾーン①</td></tr> <tr><td>ゾーン②</td></tr> <tr><td>ゾーン③</td></tr> <tr><td>ゾーン④</td></tr> </table> <p>【対象市町村名】 米子市（旧米子市、旧淀江町）、南部町（旧会見町、旧西伯町）、伯耆町（旧岸本町、旧港口町）、江府町、大山町（旧大山町、旧名和町）、日吉津村</p> <p>対象市町村 対象外市町村</p>	ゾーン①	ゾーン②	ゾーン③	ゾーン④
ゾーン①					
ゾーン②					
ゾーン③					
ゾーン④					

(様式-5)

事業費の内訳書(案)

河川事業

事業名 日野川総合水系環境整備事業 (全体事業費)

評価年度 平成23年度 再評価

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
工事費	本工事費		式	1	138	
		高水敷整正	m ²	13,000	13	
		ワンド整備	箇所	1	5	
		管理用通路	m ²	1,400	7	
		坂路	m ²	893	27	
		護岸	m ²	2,800	70	
		その他	式	1	16	仮設工等
		間接経費等		式	1	77
事業費 計		式			215	

維持管理費	式	1	9	
-------	---	---	---	--

TCM 調査結果 (福市箇所)

(1) アンケート集計数

箇所名	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
福市箇所	1,200	617	51.4%	456	73.9%

(2) トラベルコスト算定結果

【福市箇所】

ゾーン	<整備前> 利用頻度 (回/年)	<整備後> 利用頻度 (回/年)	旅行 費用 (円/回)
1	2.35	10.04	142
2	3.04	5.30	241
3	0.24	0.56	436
4	0.13	0.26	764

(3) 便益・費用算定結果

年便益(百万円)	B(百万円)	C(百万円)
45	824	193

◇Bは残存価値を加算した。

◇年便益 = 整備後の消費者余剰 - 整備前の消費者余剰
= 81百万円 - 36百万円
= 45百万円

まず、同封の『アンケート説明資料』をご覧ください、
下記の質問にご回答下さい。

問1 あなたは法勝寺川をご存知ですか？

※あてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んでください。

1. よく知っており、よく行く（概ね月1回以上）。
2. よく知っており、たびたび行く（概ね年数回程度）。
3. 知っており、たまに行く（概ね年1回程度）。
4. 知っているが、行かない。
5. 初めて知った。

『米子市福市地区』についてお伺いします。

『米子市福市地区』については、同封の『アンケート説明資料』に記載しています。

問2 あなたは説明資料に示すような水辺の楽校が『福市地区』で計画されていることをご存じでしたか？

※あてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んでください。

1. 知っていた。
2. 知らなかった。

問3 あなたは、現在、『福市地区』をどのくらい訪れていますか？

※あてはまるものを一つ選んで番号を○で囲み、() 内におおよその回数を記入してください。

1. 週1回以上 ⇒ 週に()回くらい
2. 月1回以上 ⇒ 月に()回くらい
3. 年1回以上 ⇒ 年に()回くらい
4. 年1回未満
5. 行ったことがない

※「5」を選択した方は、問5に進んでください。

問4 どのような目的で『福市地区』に行きましたか？

※あてはまるものすべてを選び、番号を○で囲んでください。（複数回答可）

1. 釣りや水遊びなどの水辺利用
2. 散策、ジョギング、サイクリング
3. 河川敷の利用、スポーツ
4. 自然観察、環境・体験学習
5. 清掃などの地域活動
6. 通勤・通学
7. その他（具体的に：)

問5 あなたは『福市地区』の水辺の楽校が完成（護岸や管理用通路などの整備が完成）したら、『福市地区』を何回くらい訪れようと思いますか？

※あてはまるものを一つ選んで番号を○で囲み、() 内におおよその回数を記入してください。

1. 週1回以上 ⇒ 週に()回くらい
2. 月1回以上 ⇒ 月に()回くらい
3. 年1回以上 ⇒ 年に()回くらい
4. 年1回未満
5. 行くつもりはない

問6 あなたのお宅から『福市地区』に行くとした場合、どのような交通手段を利用しますか？

※あてはまるものを一つ選び、番号を○で囲んでください。また、 枠には、片道に要するおおよその時間を記入してください。

1. 車・バイク
 2. 自転車
 3. 徒歩
 4. バス
 5. その他()
- で 分くらい

問7 あなたは、説明資料に示した全ての施設が整備されたとしたら、『福市地区』を利用する回数とはどのくらい増えると思いますか（整備前と比較して）。

※あてはまるものを一つ選んで番号を○で囲み、() 内におおよその回数を記入してください。

1. 週1回以上 ⇒ 週に()回くらい増える
2. 月1回以上 ⇒ 月に()回くらい増える
3. 年1回以上 ⇒ 年に()回くらい増える
4. 年1回未満
5. 増えることはない

(フォローアップ)

日野川総合水系環境整備事業

[費用便益比 (B/C) 算定等資料]

(様式-1)

【概要】

水系・河川名	日野川水系
事業名	日野川総合水系環境整備事業
事業主体	日野川河川事務所
関係自治体	日吉津村
事業期間	2005年度～2006年度（平成17年度～平成18年度）
基準（評価年度）	2011年度（平成23年度）

【費用】

	建設費	維持管理費	合計
単純合計（実質価格）	120百万円	5百万円	125百万円
基準年における現在価値合計（C）	151百万円	3百万円	154百万円

【便益】

	便益
供用年度	平成19年度
供用年度の単年度便益（実質価格）	20百万円
残存価値	5百万円
基準年における現在価値合計（B）	525百万円

【費用便益分析結果】

費用便益比（C B R）	3.4
純現在価値（N P V）	371百万円
経済的内部収益率（E I R R）	15.1%

(様式-2)

【費用便益算定シート（事業全体の評価：フォローアップ）】

基準（評価）年度	2011（H23）
供用年度	2007（H19）
社会的割引率	4%

(単位：百万円)

年度	デフレ率	割引率	便益-B					建設費③			費用-C			計③+④			
			便益	実質価格	現在価値	実質価格	現在価値	費用	実質価格	現在価値	費用	実質価格	現在価値	費用	実質価格	現在価値	
1	西暦							600	612	774				600	612	774	
-8	2005	1.020	1.265														
-4	2007	0.993	1.170	19.9	19.9	23.3							0.1	0.1	0.1	0.1	
-3	2008	0.995	1.125	19.9	19.9	22.4							0.1	0.1	0.1	0.1	
-2	2009	1.000	1.082	19.9	19.9	21.5							0.1	0.1	0.1	0.1	
-1	2010	1.000	1.040	19.9	19.9	20.7							0.1	0.1	0.1	0.1	
0	2011	1.000	1.000	19.9	19.9	19.9							0.1	0.1	0.1	0.1	
1	2012	1.000	0.982	19.9	19.9	19.1							0.1	0.1	0.1	0.1	
2	2013	1.000	0.925	19.9	19.9	18.4							0.1	0.1	0.1	0.1	
3	2014	1.000	0.889	19.9	19.9	17.7							0.1	0.1	0.1	0.1	
4	2015	1.000	0.855	19.9	19.9	17.0							0.1	0.1	0.1	0.1	
5	2016	1.000	0.822	19.9	19.9	16.4							0.1	0.1	0.1	0.1	
6	2017	1.000	0.790	19.9	19.9	15.7							0.1	0.1	0.1	0.1	
7	2018	1.000	0.760	19.9	19.9	15.1							0.1	0.1	0.1	0.1	
8	2019	1.000	0.731	19.9	19.9	14.5							0.1	0.1	0.1	0.1	
9	2020	1.000	0.703	19.9	19.9	14.0							0.1	0.1	0.1	0.1	
10	2021	1.000	0.678	19.9	19.9	13.4							0.1	0.1	0.1	0.1	
11	2022	1.000	0.650	19.9	19.9	12.9							0.1	0.1	0.1	0.1	
12	2023	1.000	0.625	19.9	19.9	12.4							0.1	0.1	0.1	0.1	
13	2024	1.000	0.601	19.9	19.9	12.0							0.1	0.1	0.1	0.1	
14	2025	1.000	0.577	19.9	19.9	11.5							0.1	0.1	0.1	0.1	
15	2026	1.000	0.555	19.9	19.9	11.0							0.1	0.1	0.1	0.1	
16	2027	1.000	0.534	19.9	19.9	10.6							0.1	0.1	0.1	0.1	
17	2028	1.000	0.513	19.9	19.9	10.2							0.1	0.1	0.1	0.1	
18	2029	1.000	0.494	19.9	19.9	9.8							0.1	0.1	0.0	0.1	
19	2030	1.000	0.475	19.9	19.9	9.4							0.1	0.1	0.0	0.1	
20	2031	1.000	0.456	19.9	19.9	9.1							0.1	0.1	0.0	0.1	
21	2032	1.000	0.439	19.9	19.9	8.7							0.1	0.1	0.0	0.1	
22	2033	1.000	0.422	19.9	19.9	8.4							0.1	0.1	0.0	0.1	
23	2034	1.000	0.406	19.9	19.9	8.1							0.1	0.1	0.0	0.1	
24	2035	1.000	0.390	19.9	19.9	7.8							0.1	0.1	0.0	0.1	
25	2036	1.000	0.375	19.9	19.9	7.5							0.1	0.1	0.0	0.1	
26	2037	1.000	0.361	19.9	19.9	7.2							0.1	0.1	0.0	0.1	
27	2038	1.000	0.347	19.9	19.9	6.9							0.1	0.1	0.0	0.1	
28	2039	1.000	0.333	19.9	19.9	6.6							0.1	0.1	0.0	0.1	
29	2040	1.000	0.321	19.9	19.9	6.4							0.1	0.1	0.0	0.1	
30	2041	1.000	0.308	19.9	19.9	6.1							0.1	0.1	0.0	0.1	
31	2042	1.000	0.296	19.9	19.9	5.9							0.1	0.1	0.0	0.1	
32	2043	1.000	0.285	19.9	19.9	5.7							0.1	0.1	0.0	0.1	
33	2044	1.000	0.274	19.9	19.9	5.5							0.1	0.1	0.0	0.1	
34	2045	1.000	0.264	19.9	19.9	5.2							0.1	0.1	0.0	0.1	
35	2046	1.000	0.253	19.9	19.9	5.0							0.1	0.1	0.0	0.1	
36	2047	1.000	0.244	19.9	19.9	4.8							0.1	0.1	0.0	0.1	
37	2048	1.000	0.234	19.9	19.9	4.7							0.1	0.1	0.0	0.1	
38	2049	1.000	0.225	19.9	19.9	4.5							0.1	0.1	0.0	0.1	
39	2050	1.000	0.217	19.9	19.9	4.3							0.1	0.1	0.0	0.1	
40	2051	1.000	0.208	19.9	19.9	4.1							0.1	0.1	0.0	0.1	
41	2052	1.000	0.200	19.9	19.9	4.0							0.1	0.1	0.0	0.1	
42	2053	1.000	0.193	19.9	19.9	3.8							0.1	0.1	0.0	0.1	
43	2054	1.000	0.185	19.9	19.9	3.7							0.1	0.1	0.0	0.1	
44	2055	1.000	0.178	19.9	19.9	3.5							0.1	0.1	0.0	0.1	
45	2056	1.000	0.171	19.9	19.9	3.4				4.6	8.0		0.1	0.1	0.0	0.1	
合計			995.0	995.0	520.1	0.0	4.6	524.7	120.0	121.7	151.1	5.0	5.0	2.6	125.0	126.7	153.7

費用便益比	
総便益(億円)	B 5.2
総費用(億円)	C 1.5
費用便益比	B/C 3.4
純現在価値(億円)	B-C 3.7
経済的内部収益率	15.1%

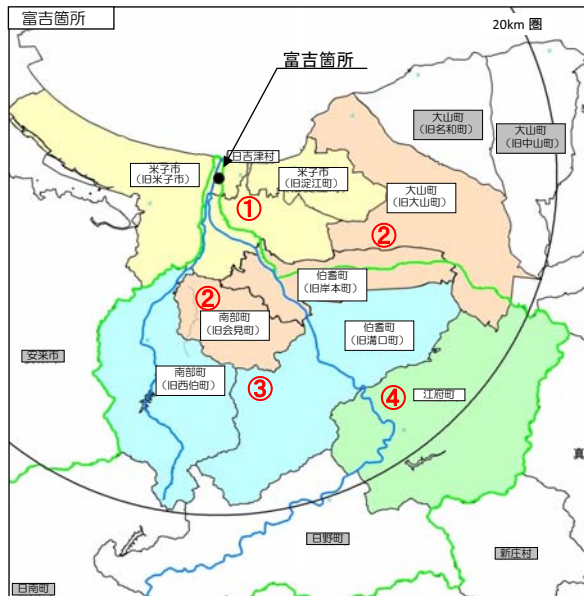
(様式-3)

【算出説明書】

事業概要	
事業目的	<p>日野川は、その源を鳥取県日野郡日南町三国山（標高1,004m）に発し、法勝寺川や印賀川、俣野川等を合わせて、日本海に注いでいる。下流部には「日野川桜づつみ」等が整備され、地域住民に広く利用されている。</p> <p>支川の法勝寺川は、米子市観音寺において日野川に合流し、流域内で肥沃な平地部を形成しており、のどかな田園風景が広がる。河川水は古くから農業用水として利用され、また、14箇所の発電所において発電用水として使用されている。</p> <p>(水辺整備) 《富吉箇所》 護岸や堤防は急勾配で水辺に近づきにくく、水辺には草類や樹木が繁茂していたため、子どもたちが日常的に川と触れ合い、河川環境学習などの活動の場として利用できるように基盤整備を行った。</p>
事業内容 (事業箇所図)	<p>(水辺整備) ・富吉箇所 [H17～H18年度] (国) 高水敷整正、階段工、護岸等</p> 

(様式-4)

【算出説明書】

費用便益比の算定根拠					
評価手法	(水辺整備) : TCM (平成23年11月にアンケート実施)				
便益計測期間	H19～H68 (事業完了から50年)				
総便益	<p>○年便益額 = 20百万円 ○残存価値 = 5百万円 総便益 B = \sum 単年度便益額 / (1 + 0.04)ⁿ + 残存価値 = 525百万円</p>				
評価範囲 (評価対象範囲図)	<p>○便益集計範囲：プレアンケート結果より、利用が確認された1市4町1村とした。</p> <p>○人口：147,427人 ○アンケート配布方法：郵送 ○アンケート票数：1,200通配布 回収数 588票 (回収率 49.0%) 有効回答数 495票 (有効回答率 84.2%)</p>  <p>【対象市町村名】 米子市 (旧米子市、旧淀江町)、南部町 (旧会見町、旧西伯町)、伯耆町 (旧岸本町、旧溝口町)、江府町、大山町 (旧大山町)、日吉津村</p> <p>対象市町村 対象外市町村</p> <table border="1"> <tr> <td>ゾーン①</td> <td>ゾーン②</td> </tr> <tr> <td>ゾーン③</td> <td>ゾーン④</td> </tr> </table>	ゾーン①	ゾーン②	ゾーン③	ゾーン④
ゾーン①	ゾーン②				
ゾーン③	ゾーン④				

(様式-5)

事業費の内訳書(案)

河川事業

事業名	日野川総合水系環境整備事業 (全体事業費)
-----	-----------------------

評価年度	平成23年度	フォローアップ
------	--------	---------

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
工事費	本工事費		式	1	103	
			式	1	103	
		高水敷整正	m	16,000	16	
		階段工	箇所	1	2	
		管理用通路	m	2,000	10	
		護岸	m	3,500	53	
		水路工	式	1	7	
		その他	式	1	15	仮設工等
間接経費等			式	1	17	
事業費 計			式		120	
維持管理費			式	1	5	

TCM 調査結果 (富吉箇所)

(1) アンケート集計数

箇所名	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
富吉箇所	1,200	588	49.0%	495	84.2%

(2) トラベルコスト算定結果

【富吉箇所】

ゾーン	<整備前> 利用頻度 (回/年)	<整備後> 利用頻度 (回/年)	旅行 費用 (円/回)
1	0.03	0.91	222
2	0.03	0.57	409
3	0.04	0.06	622
4	0.02	0.03	1,071

(3) 便益・費用算定結果

年便益(百万円)	B(百万円)	C(百万円)
20	525	154

◇Bは残存価値を加算した。

◇年便益 = 整備後の消費者余剰 - 整備前の消費者余剰
= 21百万円 - 1百万円
= 20百万円

まず、同封の『アンケート説明資料』をご覧ください、
下記の質問にご回答下さい。

問1 あなたは日野川をご存知ですか？

※あてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んでください。

1. よく知っており、よく行く（概ね月1回以上）。
2. よく知っており、たびたび行く（概ね年数回程度）。
3. 知っており、たまに行く（概ね年1回程度）。
4. 知っているが、行かない。
5. 初めて知った。

『日吉津の水辺の学校』についてお伺いします。

『日吉津の水辺の楽校』については、同封の『アンケート説明資料』に記載しています。

問2 あなたは、『日吉津の水辺の楽校』が完成した後（平成18年度より後）、『日吉津の水辺の楽校』をどのくらい利用していますか？

※あてはまるものを一つ選んで番号を○で囲み、（ ）内におおよその回数を記入してください。

1. 週1回以上 ⇒ 週に（ ）回くらい
2. 月1回以上 ⇒ 月に（ ）回くらい
3. 年1回以上 ⇒ 年に（ ）回くらい
4. 年1回未満
5. 行ったことがない

※「5」を選択した方は、問4に進んでください。

問3 どのような目的で『日吉津の水辺の楽校』に行きましたか？

※あてはまるものすべてを選び、番号を○で囲んでください。（複数回答可）

1. 釣りや水遊びなどの水辺利用
2. 散歩、ジョギング、サイクリング
3. 河川敷の利用、スポーツ
4. 自然観察、環境・体験学習
5. 清掃などの地域活動
6. 通勤・通学
7. その他（具体的に： ）

問4 あなたは、説明資料に示した『日吉津の水辺の楽校』が整備される前（平成17年以前）に、鳥取県西伯郡日吉津村付近の日野川を何回くらい訪れていましたか？

※あてはまるものを一つ選んで番号を○で囲み、（ ）内におおよその回数を記入してください。

1. 週1回以上 ⇒ 週に（ ）回くらい
2. 月1回以上 ⇒ 月に（ ）回くらい
3. 年1回以上 ⇒ 年に（ ）回くらい
4. 年1回未満
5. 行ったことがない

問5 あなたのお宅から『日吉津の水辺の楽校』に行くとした場合、どのような交通手段を利用しますか？

※あてはまるものを一つ選び、番号を○で囲んでください。また、 枠には、片道に要するおおよその時間を記入してください。

1. 車・バイク
 2. 自転車
 3. 徒歩
 4. バス
 5. その他（ ）
- で 分くらい

問6 あなたは、『日吉津の水辺の楽校』が平成18年度に整備されて「説明資料」のような状態になったことにより、『日吉津の水辺の楽校』を利用する回数はどのくらい増えましたか（整備前と比較して）。

※あてはまるものを一つ選んで番号を○で囲み、（ ）内におおよその回数を記入してください。

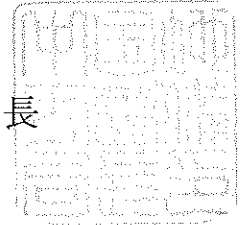
1. 週1回以上 ⇒ 週に（ ）回くらい増えた
2. 月1回以上 ⇒ 月に（ ）回くらい増えた
3. 年1回以上 ⇒ 年に（ ）回くらい増えた
4. 年1回未満
5. 増えていない。

日野川総合水系環境整備事業
〔鳥取県への意見照会と回答〕

国中整企画第81号
国中整港計第46号
平成24年1月4日

鳥取県知事 殿

中国地方整備局長



中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る
対応方針(原案)の作成に係る意見照会について

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対するご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領（以下「実施要領」という。）に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を図るべく、中国地方整備局事業監視委員会（以下「委員会」という。）において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、平成24年1月26日（木）に委員会を開催することとなりましたので、実施要領に基づき、委員会に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、平成24年1月17日(火)までに、別紙について貴職のご意見を承りたく依頼いたします。

※ご意見の送付・問い合わせ先

中国地方整備局 企画部 企画課

課長補佐 浜崎

教習係長 木本

電話：082-221-9231

FAX：082-227-2651

(別紙)

【河川事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
日野川総合水系環境整備事業	継続	

※貴県の意見を踏まえ、「中国地方整備局事業監視委員会」へ諮る
対応方針(原案)を作成するためのものです。

第 201100152852 号
平成 24 年 1 月 17 日

国土交通省中国地方整備局長 様

鳥 取 県 知 事



中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の作成に係る意見
照会について（回答）

平成 24 年 1 月 4 日付国中整企画第 81 号及び国中整港計第 46 号で照会のあった日野川総合水系環境整備事業の事業再評価に係る対応方針（原案）については異存ありません。

日野川は良好な水質や豊かな河川環境に加えて、現在まで取り組んでいただいた総合水系環境整備事業により良好な河川空間が創出され、地域住民に広く利用されているところです。

今後も河川環境の一層の向上が求められる中、引き続き完成に向け御尽力をお願いします。あわせて、事業の執行に際しては、できる限り経費の縮減を図られるようお願いいたします。

（担当 技術企画課 企画・技術調査担当 中原、電話 0857-26-7499、ファクシミリ 0857-26-8189）

